

研究室紹介

長崎県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門 カンキツ研究室

長崎県農林技術開発センター果樹・茶研究部門は、カンキツ、ナシ、ブドウ等の産地である大村市の丘陵地に位置し、昭和29年（1954年）に長崎県農業試験場大村園芸分場として発足しました。昭和36年（1961年）に機構改革により長崎県総合農林センター果樹部となり、昭和45年（1970年）に長崎県総合農林試験場果樹部と改称しました。昭和47年（1972年）に長崎県果樹試験場として独立し、平成21年（2009年）に総合農林試験場、畜産試験場と統合、農林技術開発センター果樹研究部門となりました。その後、平成27年（2015年）の組織改正により研究調整室、カンキツ研究室、ビワ・落葉果樹研究部の3室に東彼杵町の茶業研究室を加え、果樹・茶研究部門となり、現在に至っています。

果樹関係の試験研究では長崎県特産のビワとカンキツの新品種育成、新素材、新栽培法による果実品質向上、貯蔵・鮮度保持技術の開発、環境と調和した病害虫管理技術の開発等に取り組んでいます。

現在の果樹・茶研究部門果樹研究施設の職員体制は事務職1名、研究職14名、農事員4名、嘱託3名で計22名が在籍しており、カンキツ研究室には栽培担当2名、育種担当2名、病害担当1名、虫害担当1名の研究員が在籍しています。ここでは現在取り組んでいる病害虫関連の試験研究課題の一部を紹介します。

1 果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査

カンキツの主要な品種や今後登録を進める系統について



果樹・茶研究部門の庁舎

〒856-0021 長崎県大村市鬼橋町1370
TEL 0957-55-8740



露地ビワで問題となる果実腐敗

て、無毒化による健全母樹の育成を行っているほか、果樹で異常発生および新規発生した病害虫や近年本県で導入されている各種新果樹および新作型における病害虫の防除対策確立に取り組んでいます。

2 腐敗の出にくいビワ栽培環境の解明と耕種的防除技術の確立

露地栽培ビワの生産上の課題である果実腐敗対策のため、これまでに腐敗果抑制のための有効薬剤・散布時期の検討や新たな防除機械（レインガン）による防除作業の効率化・省力化を検討してきました。現在は腐敗にかかわる樹体条件の解明や栽培環境改善等耕種的防除技術を機軸とした腐れにくいビワ栽培技術の開発に取り組んでいます。

3 インセクタリープラントを活用した中晩生カンキツ草生栽培技術の確立

これまでにカンキツの栽培環境に適する天敵温存植物を数種選定しており、現在は中晩生カンキツにおける天敵温存植物の活用と草生栽培の組合せにより、土着天敵、放飼天敵の増強による化学農薬使用回数の低減、除草労力の軽減による圃場管理の省力化、果実品質の向上を目指した栽培技術を検討しています。

4 カンキツ病害虫の防除法・落葉果樹の重要病害虫防除法（委託）

カンキツ、ビワ、落葉果樹の主要な病害虫に対する新農業の実用化や有効な防除法の確立のため、日本植物防疫協会、九州病害虫防除推進協議会から委託を受けて試験を実施しています。試験の中で得られた結果をもとに防除効果が高く、より安全な薬剤を選定して県病害虫防除基準に採用しています。

当研究室では今後も生産者に役立つような成果を提供できるように、生産現場と直結した試験研究を行い、新たな技術開発に取り組んでいきます。

（研究員 柴田真信）